

これまでの取組み状況について

全体構想策定の背景

荒川区では、平成13年度策定日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想をはじめ、どれもが安全・安心・快適に生活する街づくりの実現に取り組んでまいりましたが、荒川区全体をみると、新たな鉄道網等の公共交通の整備、更なる高齢化の進展など、バリアフリー新法に対応した区内全域における施設整備が求められています。

全体構想策定の目的

本基本構想は、これまで推進してきた「日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」の検証及び見直しを含め、バリアフリー化を見据えた街づくりの基本理念並びに基本方針を示し、荒川区全体のバリアフリー化を先導する重点整備地区を設定するものです。

基本構想の位置づけ

日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想
(平成13年度策定)
交通バリアフリー法に基づく基本構想

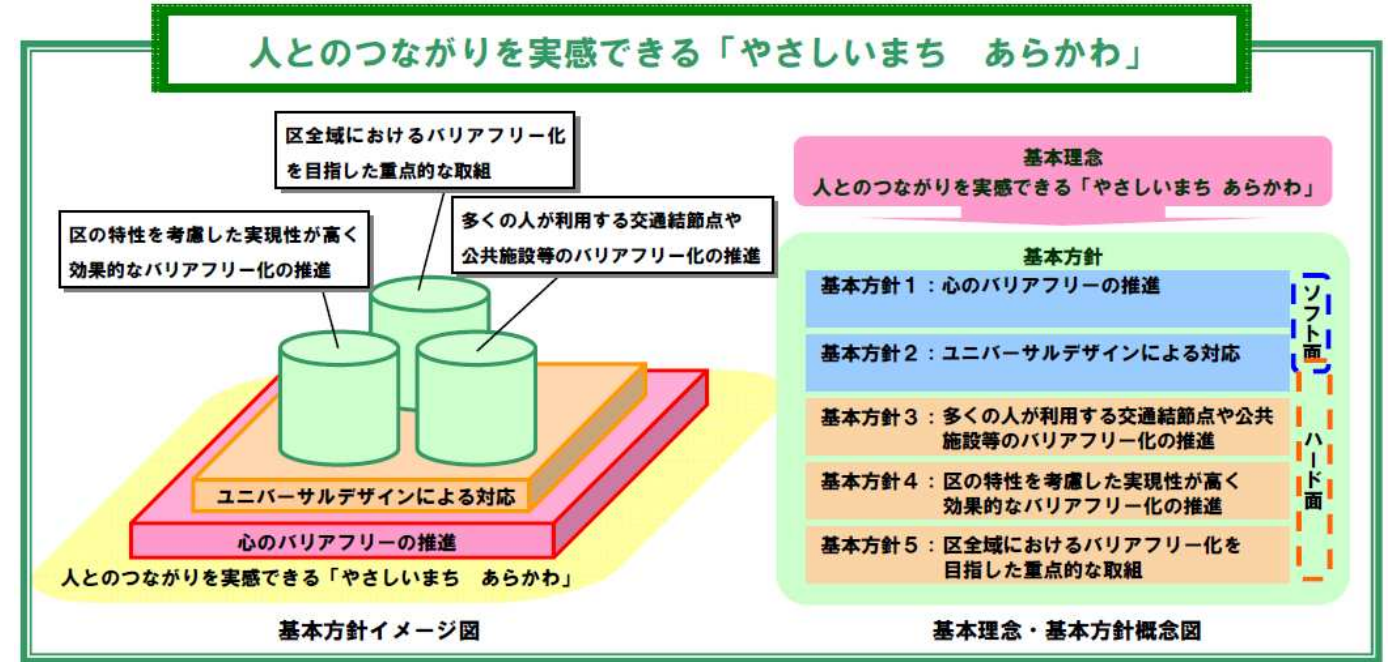
バリアフリー新法 施行
(平成18年法律第九十一号)

- 【平成21年度策定】荒川区バリアフリー基本構想(全体構想)
- ・ 荒川区のバリアフリー化についての基本的な考え方
 - ・ 荒川区の現状の評価
 - ・ 上位・関連計画
 - ・ 日暮里駅周辺地区交通バリアフリー基本構想の検証
 - ・ 荒川区バリアフリー基本理念・基本方針
 - ・ 重点整備地区の考え方・設定・優先順位付け

- 地区別バリアフリー基本構想及び特定事業計画
- 【平成22年度策定】町屋駅・区役所周辺地区
 - 【平成23年度策定】日暮里駅・西日暮里駅・三河島駅周辺地区
 - 【平成24年度策定】南千住駅周辺地区
 - 【平成25年度策定】熊野前駅周辺地区

基本理念・基本方針(全体構想より)

荒川区全体でのバリアフリー化を推進するためには、「心のバリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」への取組を全区的な観点から展開していくことが重要です。



重点整備地区



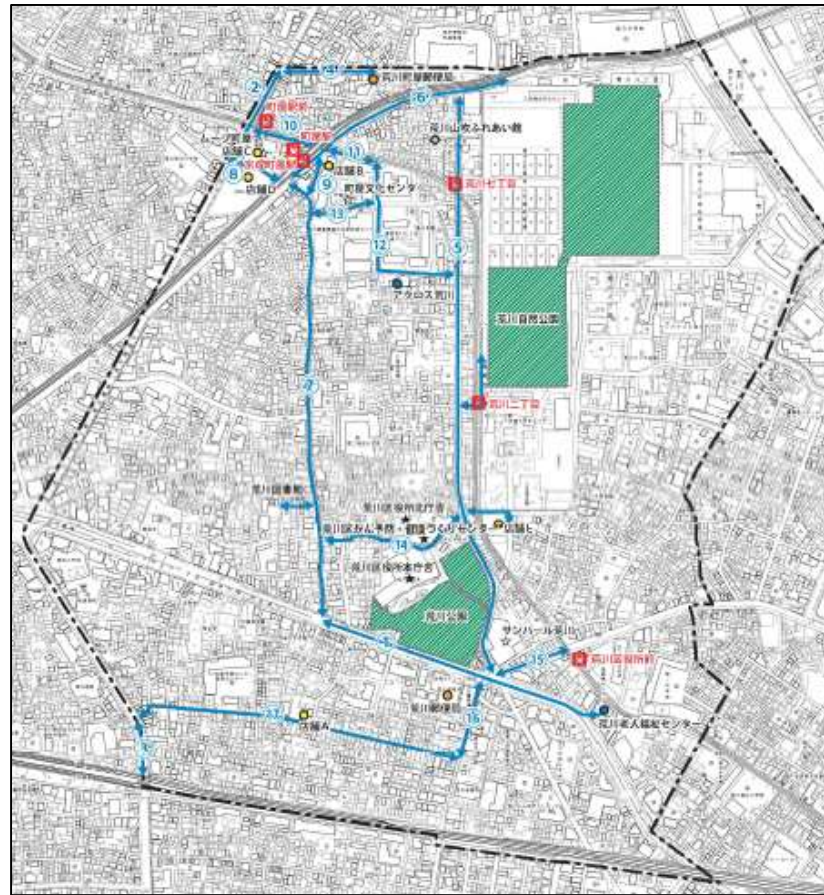
【平成22年度策定】
町屋駅・区役所周辺地区
バリアフリー基本構想

基本方針

町屋駅・区役所周辺地区は、密集市街地に位置し、細街路が多く歩車道分離が困難なため、バリアフリー化に当たっては、ソフト面における取組や区民のバリアフリーに対する“気付き”を高めるため、特に「心のバリアフリー」を推進します。

町屋駅・区役所周辺地区は、区役所、サンパール荒川など、区民が日常的に利用する施設が多く、それらの施設相互を連絡する経路については、誰もが安全で円滑に移動できる「バリアフリーネットワーク化」を推進します。

地区内の生活関連施設、生活関連経路の「重点的なバリアフリー化」を先導的に推進し、取り組む内容を他の重点整備地区へ波及させ、更には荒川区全体に展開します。



本地区の基本構想の特徴

- 区役所等が立地し、最も優先度の高い地区として、4箇所の重点整備地区の中で最も早く基本構想を策定した。
- 基本構想策定後3年が経過し、荒川自然公園にエレベーターが設置されるなど、ハードを含むバリアフリー化が進展している。

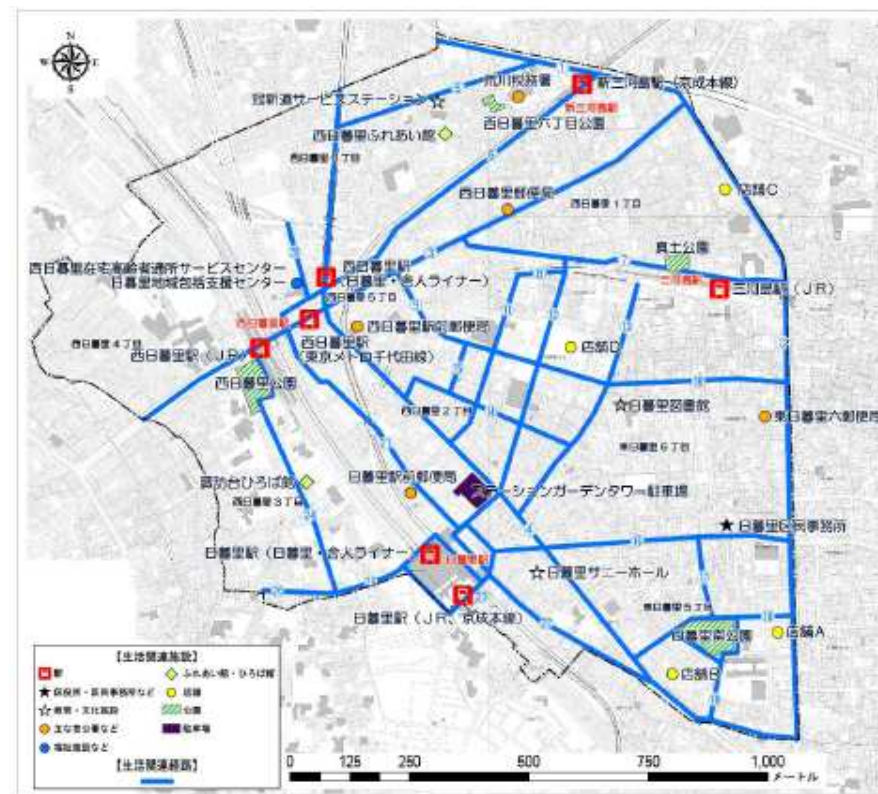
【平成23年度策定】
日暮里駅・西日暮里駅・三河島駅周辺地区
バリアフリー基本構想

基本方針

駅を中心に一定のバリアフリー化が進んでいる日暮里駅周辺については、鉄道駅並びに各種施設相互を連絡する経路について、既存バリアフリー化区間との連携を含め、地区全体として、誰もが安全で円滑に移動できる「バリアフリーネットワーク化」の拡充を推進します。

日暮里駅・西日暮里駅を始めとした公共交通機関のターミナルとしての機能が充実した、区内外の多くの利用者が行き交う地区であり、隣接地区等との連携を考慮した「重点的なバリアフリー化」を推進し、他の重点整備地区への波及並びに区全体への展開を目指します。

地区内の生活関連施設、生活関連経路における施設のバリアフリー化の推進と合わせ、ソフト面の取組や多様な利用者のバリアフリーに対する“気付き”を高めるため、「心のバリアフリー」を推進します。



本地区の基本構想の特徴

- 旧法（交通バリアフリー法）に基づきバリアフリー整備を実施中である日暮里駅周辺地区を含んでいる。
- 基本構想策定にあたって、現行計画のフォローアップを実施した。

【平成24年度策定】
南千住駅周辺地区
バリアフリー基本構想

基本方針

バリアフリー化に当たっては、東西地区で市街地の形成過程等の特性が異なる地域において、地区特性に応じた施策を展開し、地域全体として、誰もが安全で円滑に移動できる「バリアフリーネットワーク化」の拡充を推進します。併せて、隣接する台東区と連携した取組を行います。

地区内の生活関連施設、生活関連経路における施設のバリアフリー化の推進と合わせ、ソフト面の取組や多様な利用者のバリアフリーに対する“気付き”を高めるため、「心のバリアフリー」を推進します。

南千住駅や駅周辺商業施設、区民利用施設などが立地し、区内外の多くの利用者が行き交う地区であり、隣接地区などとの連携を考慮した「重点的なバリアフリー化」を推進し、他の重点整備地区とともに区全体への展開を目指します。



本地区の基本構想の特徴

- 台東区に隣接し、両区民が相互に利用する施設が多いことから、住民部会（まちあるき点検）等を台東区と連携して実施した。
- 大規模な商業施設が多く立地し区民の利用も多いことから、本地区から、民間建築物についても特定事業計画を策定した。民間建築物については、計画策定中に対策が実施されるなど事業者による迅速な対応があった。
- 過去の2地区で実施していた「区民による取り組み」を発展させ、住民部会で、区民が主体となった具体的な活動内容についても検討した。

【平成25年度策定】
熊野前駅周辺地区
バリアフリー基本構想

基本方針

区民の外出機会を促進し健康増進にもつなげるために、都電やコミュニティバスなどの新旧交通手段を活用し、地区内の病院、公園、大学、商店街等を連絡するとともに、ソフト・ハードによる適切な情報提供を行います。
 これまでに地区別基本構想を策定した重点整備地区の成果を踏まえ、ソフト面の取組や多様な利用者のバリアフリーに対する“気付き”を高めるための「心のバリアフリー」を推進します。
 施設の更新・再整備やハードを補完するソフト対策における住民参加を促進するとともに、継続した住民参加の取組を区全体に展開すること目指します。

各地区における特定事業の内容
概要版参照



本地区の基本構想の特徴

- ・首都大学東京荒川キャンパスや東京女子医大東医療センターが立地し、商店街も多く、これまでの地区よりも生活に密着しているエリアである。
- ・都電やバスといった生活交通を軸に据え、具体的な整備項目よりも移動環境に着目している特徴があげられる。
- ・心のバリアフリーの実践段階へ入るべく、過去の3地区で実施していた「区民による取り組み」を発展させ、住民部会で、区民が主体となった具体的な内容を実施することができた。



H22年度 町屋駅・区役所周辺地区



H23年度 日暮里駅・西日暮里駅・三河島駅周辺地区



H24年度 南千住駅周辺地区



H25年度 熊野前駅周辺地区